鹿児島県のツルおよびその渡来地

【所　在　地】出水市・出水市高尾野町・出水市野田町
【種　　別】国指定特別天然記念物
【指定年月日】昭和 27 年３月 29 日（国指定天然記念物　大正 10 年３月３日）

出水市荒崎休遊地

出水市・高尾野町・野田町にまたがる出水平野は，ツルの集団越冬地としてよく知られている。毎年，10 月中旬頃から渡来しはじめ，11 月に入り北西風が吹く頃になるとピークに達し，翌年３月下旬頃までとどまる。

渡来数は昭和 14（1939）年に 3,908 羽という記録があるが，戦中・戦後においては激減し，昭和 26（1951）年には 241 羽まで減少している。しかし，その後次第に増え続け，昭和 55（1980）年には５千羽を越え，さらに平成４（1991）年には１万羽をこえ，平成 12（2000）年には過去最高の 13,521 羽を記録した。

出水平野に渡来するツルのほとんどはナベヅルとマナヅルで，前者が約 80 %，後者が約 20 %を占める。これらは繁殖地のシベリア東部や中国東北部から，朝鮮半島を経由して出水平野に渡来する。出水平野では，世界中のナベヅルの約 90 %，マナヅルの約 50 %が越冬しているといわれている。そのほかに，クロヅル，カナダヅル，ナベグロヅル（ナベヅルとクロヅルの雑種）が少数ほぼ定期的に，また，アネハヅル，ソデグロヅル，タンチョウなども稀に渡来する。

本県以外のツルのおもな渡来地としては，山口県熊毛町八代が知られているが，渡来数は少ない。また，北海道東部にはタンチョウが周年生息している。これらも国の特別天然記念物に指定されている。